

年長5歳児 ほし組 保育指導案

指導者 金崎 沙耶香

1 活動名 そうだ！ いいね！ 力を合わせて やってみよう（こどもまつり）

2 活動のねらい

- ・自分（たち）のめあてをもち、それを実現するために、自由に発想し、試したり工夫したりしながら遊ぶ。
- ・ほし組でする「こどもまつり」に対してイメージを創りあげていく醍醐味を感じながら遊ぶ。

3 保育の構想

(1) 本学級の子どもを以下の3つの視点で捉えた。

①生活について

4月にクラス替えを行い、男児9名女児9名計18名（うち4月入園児2名）の学級編成である。

年長としての自覚をもち、当番活動やうさぎの世話を張り切って行っている。運動会にかかわる活動を通して、「自分たちができることは、自分でしょう」「みんなで運動会をつくろう」と意欲的に取り組んだ。また、友だちが困っていると進んで声をかけ、手を貸す、どうしたらいいのか教える等クラスの友だちの存在を意識し、他者と一緒に生活しようとしている。教師の話聞く態度も意欲的になってきており、心を寄せながら集中して聞くことや、教師の話聞きながら自分の思いや考えを出す様子も見られている。また、遊びや話し合いの中で、友だちに自分の思いや考えを伝えたり、友だちの思いや考えを聞こうとしたりしている。

このように自分の思いや考えを友だちに表現することは出来るようになってきている。今後はさらに、子ども一人一人が意欲的に自己発揮し周りの人を意識して、友だちと一緒に課題を解決しながら生活をしていく姿を育てたい。

②遊びへの取組について

泥だんご作りの遊びでは一人一人がどんな泥団子にしたいか、どうやったら作れるか等を考えながら作っていた。「ちょっとだけの土で作ったらカチカチになるよ。」「いっぱいコロコロしたら光る土が出て来るよ。」等、遊びの中での気づきを話してくる姿があった。また、ピカピカにする為に手の平の色々な場所で丸めてみようとする、いい匂いにしようとして葉っぱや木の削り粉を付けてみる等、自分で思いついた事を試しながら遊んでいた。

子どもの気づきや発想をみんなで共有していく為に、学級で泥団子グランプリを決める活動を行った。その際、どんな工夫をしたのかを伝えたり、どうやって作ったのかを聞いたりする姿が見られた。自分のめあてを明確にもっている時には興味関心をもち取り組んでいこうとしている。反対に願いや興味関心が薄い時にはやってみたものの、つまずき、すぐにやめてしまうことや友だちと楽しさを共有できずに戸惑ってしまうこともある。

③人とのかかわり

築山で水を流す遊びの場面では友だちと遊びの場を共有し、下まで水を流す為の工夫を試してみても、友だちに「みてみて、ここつながったよ。」と伝えながら遊ぶ様子があった。また、藤の実が上手く採れずに困っている友だちに、どうしたら採れたのかを伝えたり自分の考えた道具を使って採ってあげたりする姿があった。このように友だちに自分の経験した事を伝える様子が見られる。思いを伝えることが出来る姿から、学級のみんなで協同する遊びの姿を期待したい。友だちとめあてを共有し、それを実現するために、友だちの考えと自分の考えを合わせ、折り合いをつけながらつまずきや問題を一緒に解決し、実現した時の達成感を共に感じて欲しい。

(2) この時期は、年長9期にあたり、「こどもまつり」に取り組む活動を計画している。「こどもまつり」は、クラスの友だちと一緒に考え、自分たちの遊びから祭りを再構成していく。そこから「こどもまつり」としての発想を引き出していく活動である。「こどもまつり」から発想するオリジナルな遊びを楽しみながら、友だちと問題解決等しながら実現しようとする姿や、学級で同一のめあてに向かって協力して取り組もうとする姿が期待できる。

「こどもまつり」の活動に取り組む中で気付きや発想を自分のものだけで終わってしまうのではなく、友だちと共有することでお互いに触発し合うようにしたい。そして、さらなる気付きや発想が生まれ、それを共通のめあてにして、力を合わせて主体的に楽しんで遊んでいくことを期待する。子どもからの自由な発想を「オリジナル」の発想として価値付けていく事で、みんなでほし組オリジナルの「こどもまつり」を創るという共通のめあてに向かう。

また、友だちと相談し進めていく中で、友だちとの思いの違い等から葛藤等の感情を経験することもあるだろう。そのようなときには、子どもがめあてに立ち返り、どういう祭りにしたいのかをみんなで考えられるよう援助をしていく。

活動を構成するにあたっては、「気付き・めあてをもつ姿」「発想し・試す姿」「協同する姿」の資質・能力が現れている姿として、以下の事を大切にする。

○「気付き・めあてをもつ姿」については、好奇心を発揮しながら、自分の遊びに面白さを感じ、「何でだろう?」「どうしてかな?」といった問いをみつけながら遊びを楽しむ姿を期待する。子どもの気付きが、「やってみたい」「〇〇にしたい」といっためあてにつながるよう、教師は子どもの願いや思いをやりとりをしながら整理していく。遊びを進めていく上で、子どもの思いに寄り添いながら、どんな方法や材料、道具があるのか、どうしたら上手くいくのかを問いかけたり一緒に考えたりしていく。

○「発想し・試す姿」では次のような姿を期待する。子どもが「やってみたい」「面白そう」「むずかしい」と思ったことに向かって自らの発想(〇〇さんらしさ)を試しながら表現していく姿である。その姿が現れるようにするために、発想のよさや様々に試している姿を認めていく。「面白いことを考えたね。」「なぜそれを思いついたの?」「何回も試しているんだね。」等と、一人一人の工夫や遊びを実現していく過程を価値付ける。

さらには、一人一人の発想力や経験が子ども同士の中で交わり合い、触発され合うこと(仲間とのオリジナル)を願う。友だちと一緒にめあてに向かい、お互いの発想を合わせながら進めていく姿を支えていく。

○「協同する姿」では、実現させたいめあてに向かって、一緒に工夫し合うことで友だちと相談したり協力したりして、遊ぶ姿を期待する。その為に、子ども同士が相談し課題解決に向かう姿を促していく。課題に気付けるような問いかけをすること、お互いの考えを確認できるよう思いを引き出すこと等のはたらきかけを行う。また、共有する時間・場を用意し、必要に応じて教師が子どもの言葉をつなぎながら相談する姿を支えていく。

4 展開計画

	ねらいと内容	◇願う子どもの姿
10月2週～11月1週	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然を感じながら、自分（たち）のイメージやめあてをもって遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然物を集める，ごっこ遊びに取り入れる等，秋ならではの自然物に触れる。 ・作りたいた物に合わせて自然物を利用する。 ・木登りや運動会ごっこ等心地良い気候の中で体を十分に動かして遊ぶ。 ○驚き，発見，感動などの体験から，気付いたことを遊びの中に取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の天神祭に行き，遊びの中でお祭りごっこをする。 ・遊びに必要なものを友だちと一緒に考える。 ・友だちと考えを出し合って，遊び方やこれから遊びをどのようにしていくかを決めながら遊ぶ。 ○いろいろな友だちに呼びかけながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に遊ぼうと友だちを誘いかける。 ・お店などに，お客さんとして来てほしいと友だちを呼ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇遊びの中でやりたい事をいろいろと試す姿 ◇やりたいと思い自分から進んで遊びを見つける姿 ◇友だちや教師とやりとりをしながら楽しさを共有し，遊びに充実感を感じる姿 ◇お神輿やお店屋さんごっこなど，経験したことをやってみようとする姿 ◇どのようにしたら面白くなるのか，イメージを形に表すことができるのか等を，一緒に遊ぶ友だちと出し合う姿 ◇お客さんとやりとりをし，リクエストに応えるために相談する姿
11月2週～3週（含本時）	<ul style="list-style-type: none"> ○「こどもまつり」という共通のイメージをもって，祭りの遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの祭りのイメージをもち，友だちと一緒にお店などを準備する。 ・「どうしたら楽しいお祭りになるのか」を考えながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分のしたいことや，自分に合った居場所を見つける姿 ◇作る事や準備することを楽しむ姿 ◇「こうしようよ。」「それいいね。」等と活発に自らの考えを伝える，友だちの思いと自分の思いを合わせ，課題を解決していく姿 ◇具体的なイメージをもち，試しながら実現できるようにする姿
11月4～5週	<ul style="list-style-type: none"> ○「こどもまつり」の当日を意識して，祭りに来る人のことを考えながら準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いのお店に行き来してやりとりをしながら，店に足りない物を準備する。 ・自分たちの祭りを見てもらおうと，みんなに声をかけて誘う。 ・「こどもまつり」の日にお家の人に見てもらうことを楽しみにしながら，さらに遊びを進めていく。 ○「こどもまつり」でお家の人や友だちに見てもらえたことを喜び，満足感をもちながら片付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・「友だちと一緒にだから楽しかった」「友だちと一緒にして良かった」等の気持ちをもち片付ける。 ・友だちと「こどもまつり」で一緒にしたことや楽しかったことなどを振り返って話をしながら片付ける。 ・作った物を大切にしながら，明日も続けていけるように整理や片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇どうすれば楽しい祭りになるのか考えを出し合う姿 ◇友だちと互いに手を貸し合う姿 ◇友だちと気持ちがつながることを喜び，店に行ったり来てほしくて呼び集めたりする姿 ◇自分たちの「こどもまつり」にみんなを招待しようという気持ちを持ち，どうすればみんなに来てもらえるのか考える姿 ◇どんなお店だとお客さんが楽しくなるかを考えて，お客さんとのやりとりをイメージし，お店の用意をする姿 ◇「こどもまつり」を終り感をもつまで続けていく姿 ◇作った物に満足感をもち，大切にしながら楽しんで整理や片付けをする姿